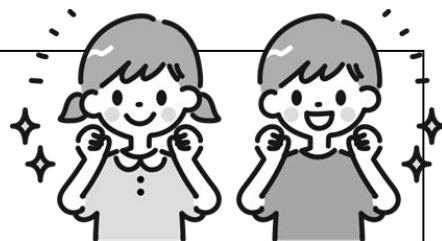


第 35 回 教文研教育シンポジウム

子どもたちの居場所・多様な学びの場を考える

—不登校の子どもたちの学びを保障するために—



1 開 会

2 神奈川県教育文化研究所あいさつ

3 基調講演

「不登校」の学習支援を考える

入澤 正樹さん (NPO 法人 SeedsAPP)

「子どもたちの居場所・多様な学びの場を考える」

1.教育支援センターや、校内教育支援センターに求められる役割

2.不登校予防・支援を「物理的環境」から考える

鈴木隆広さん

(県教委スクールカウンセラーアドバイザー)

4 シンポジウム

コーディネーター 浅見 聡 さん(東海大学)

シンポジスト 入澤 正樹 さん

鈴木 隆広 さん

関口 清 さん(開成町立学校)

阿部 健太郎さん(横浜市立学校)

(休 憩)

5 質疑・意見交換

6 閉 会



〈日 時〉 2024 年 12 月 14 日(土)14 時～16 時 30 分

〈場 所〉 神奈川県教育会館 4 F ホール

神奈川県教育文化研究所

2024.11.10
朝日

「不登校」希望ある別の呼び方を

パート 松田 路花
(北海道 44)

中3の娘はいねゆる不登校だ。コ
ロナ休校後の小学5年生からほとん
ど学校に行っていない。先日、中学
と学校に行っていない。先日、中学
と答えた。しかしその時も、その後
うちも「不登校」で抱願します、
選んだご家庭もあるとのこと。では
尋ねたところ、「不登校」の記事を
他にはなんと記載できますか、と
聞いてみた。松田路花さんの記事は
欄に「体調不良」とあった。
先生から、進学関連の書類にも、
「体調不良」の記事でよろしいです
か、と聞かれた。娘は体調不良では
ない。ピアノのレッスンに遅ったり
誑言をしたり、家の手伝いをしたり
中、その選択をした子どもの意思
が尊重され、可能性を広げていける
と、希望のある呼び方がないのか。皆
さんのアイデアを聞いてみたい。

2024.11.17
朝日

不登校 自ら選ぶ経験 生きる力に

牧師 矢吹 大輔
(千葉県 41)

「不登校」希望ある別の呼び方
を(10日)を読んだ。私は中学のほ
ぼ3年間、いわゆる不登校だった。
今振り返れば、精神的なバンスを
崩したためだったと思う。先生や
友だちは何かと気遣ってくれたが、
かえってそれが苦しかった。
学校に行けなくて、塾で勉強
し、家もしていた。図書館で乱読
をし、不登校生徒を支援する教室に
通って同世代との交流も経験した。
ただ、不登校という言葉のマイナス
イメージは今も、中学の話題になる
時など折に触れ私を苦しめ、自分が
問題。世の理解が深まってほしい。

不登校経験者と書くことはない。
投稿者のように私もボジティブな
呼び方をずっと書えてきた。ネット
で「無登校」「自宅生徒」などが盛
かっていたが、「自主休校」がしっ
くりきた。自ら選んだ前向きな意味
あいを感ずる。大学時代はよく「自
主体校」とし、本を読んだり、朝まで
友と話し込んだりしたものだ。
学校に行かない選択をしても、自
分で何かを選び取っていく経験は、
長い生涯にわたって生きる力になる
と思う。学校に行かない、行かない子
どもたちにもさわしめ呼び方を期待
する。本人だけでなく家族も大変な
問題。

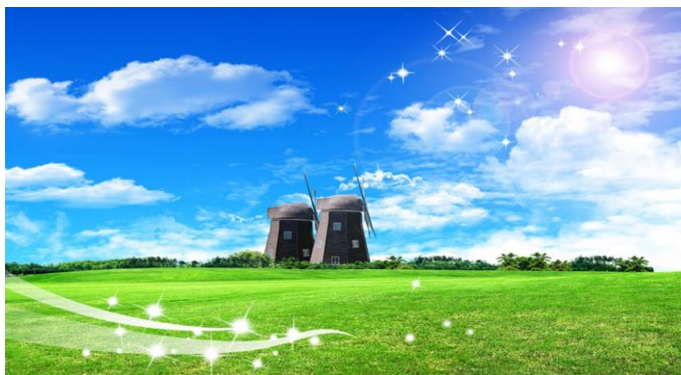
2024年 12月14日(土)

神奈川県教育委員会スクールカウンセラーアドバイザー/鈴木隆広

「子どもたちの居場所・多様な学びの場を考える」

I. 「教育支援センター」や
「**校内**教育支援センター」に求められる役割

II. 不登校予防・支援を
「**物**理的環境」から考える



I. 「教育支援センター」や

「校内教育支援センター」に求められる役割



「教育支援センター」に求められる役割

「誰一人取り残されない学びの保証に向けた不登校対策（COCOLOプラン）
（文部科学省 令和5年3月31日）」

- 不登校の児童生徒/保護者の支援の**拠点** 役割
- （将来の）社会的自立に向けた支援 役割

教室復帰だけがGOALではない

「校内教育支援センター」に求められる役割

「誰一人取り残されない学びの保証に向けた不登校対策（COCOLOプラン）
（文部科学省 令和5年3月31日）」

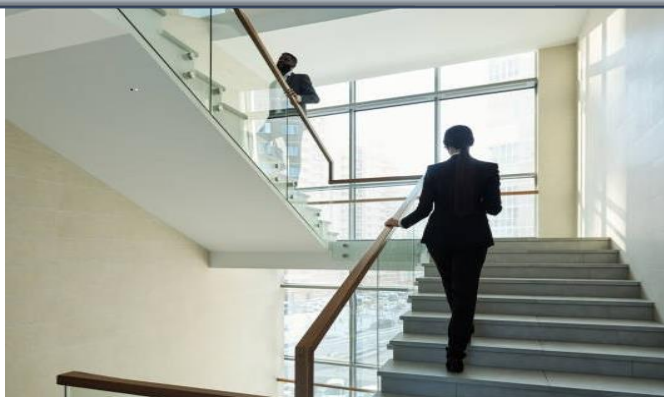
- 学校との繋がりが途切れないための「居場所的役割」
- 自分のペースで学習/生活できる「環境的役割」

「学校・学年体制」で関り活かしていきましょう

「教育支援センター」や
「**校内**教育支援センター」の（心理的側面）機能を

『心の成長の**階段**』で例えると

1. 心の成長「**踊り場**」機能
2. 心の成長「**手すり**」機能



1, 心の成長「踊り場」機能

- 立ち止まり/一休み（ゆっくり）する場
- 気楽に話せる（心理的安全性）場
- 考え/悩み迷う場
- のぼってきた風景を、立ち止まって眺める場
- 仲間と体験を共有し、支え合える場
- 次の一步に備え/選べる（自己決定）場

踊り場の
安心・安全な
居場所機能

保護者ととともに

2, 心の成長「手すり（サポート）」機能

- 必要な時/必要なことサポート機能
- 上り下りのサポート機能
- いつでも階段で待機機能
- 自分の脚でのぼるサポート機能
- のぼるペースのサポート機能

手すり機能の資源は
スタッフ・先生
友人（縦横の仲間）

保護者とともに

Ⅱ. 不登校予防・支援を

「物理的環境」から考える



学校の荒れのサイン

- ゴミ
- イタズラがき
- 掲示物
- スイッチ
- ガラス
- 天井
- 壁

学校の居心地が悪いと
不登校数が増えやすい。



環境が荒れていく

「校内教育支援センター」づくりの推進

「教育支援センター」や「学校の相談室」
の物を参考に



「イスの座る位置」の効果

不登校の子は
緊張しやすい

子ども

教員

「センターピース」効果を活かす

真ん中に物を置く



- 設置 : 顔を遮らない大きさのものを中心付近に置く
緑が中心になるようにする
- 効果 : 場の雰囲気が和らぐ・リラックス効果
 - 介在物効果



開成町教育支援センター「あじさいルーム」について

関口 清

1. 場所 開成町役場近くの2階建ての民家
1階はダイニングキッチンとバストイレ
2階は洋室（出窓）と和室（押し入れ）
2. モットー
「ゆるゆる一步一步」
3. 対象
開成町立の1中2小に在籍する児童生徒
現在は中3女子3人、中2男子4人、中1男子1人女子2人、
小6男子2人、小3男子1人
4. 指導方針
 - ・「自分」のことは自分で決める。
 - ・「今」が一番大事。
 - ・「意識」は無限のエネルギー。「思い」は実現。「原因と結果」の法則。
 - ・それぞれの良いところを見つけ出して褒める。
 - ・本人・保護者・学校・SC・SSW・教育委員会・町子育て健康課・児相等との良好な関係を築き連携する。
5. 活動内容 基本的に自由 午前中は複数の児童生徒 午後は個別対応
6. その他
 - ・久保山茂樹（国立特別支援総合研究所長）共生社会の実現
「チッ」という人のいない社会（寛容性）
 - ・澤田 稔（上智大学総合人間科学部教授）
「社会的に公正な教育における緩さとジレンマ」 Well-being
 - ・稲森和夫
アメンバー経営 「誰にでも無限の可能性がある」「利他のフィロソフィー」
 - ・日野原重明
「究極の平和運動はここをあたたかにして時間を共有することす。」
 - ・5つのワーク（ ）ワーク（ ）ワーク（ ）ワーク ワーク（ ）（ ）